

徳島ガラススタジオの課題の検討について

1 第1回検討会議について（議題「徳島ガラススタジオの現状と課題について」）

(1) 委員からの主な意見等（要旨）

施設に関するもの	① ガラスを溶かす炉の火は消すことができず、ほとんどつけたままのため、多額の費用がかかる。 ② 公的なガラス工房、ガラススタジオは、場所が広くて近辺に遊具や公園等がある。また、展示販売所やレストラン等の様々な施設が併設されており、観光バスが立ち寄れるようなところが賑わっている。 ③ ガラススタジオ単独でたくさんの人に来てもらうためには、色々な施設が併設されていなければ難しい。
講座に関するもの	① 令和5年に実施した「アウトリーチ」は面白いと思った。一定の需用があると思って、続けることは試みたほうがよい。 ② イベントについて、市民がもう少し参加できるようにするのであれば、実施回数を増やすなど、親子で参加するイベントがあればよい。 ③ 長年の固定の受講生だけで、新規受講生がほとんどいない。新規受講生を集めるような仕組み、広報の仕方が必要。 ④ シビックセンターでできることは ・展示販売の陳列場・簡単なサンドブラスト・小さな釜を使ったフィージング（色ガラスを乗せ溶かすもの）・バーナー仕上げで作るトンボ玉（机の上でランプを使い、手先を使って出来るようなもの） ⑤ シビックセンターでできないこと 吹きガラスは、かなり広い場所が必要で、閉鎖空間では難しく、テクニックも必要。技術職員でないと作業ができない難しさがある。種類に分けて存続させるという方法も一つの手ではないか。
収支に関するもの	① 収入が伸びない理由のひとつに、ガラス産業、企業が少ないことが原因ではないか。 ② 他県のガラス館に行くと、多くのガラス作品の販売をしている。徳島ガラススタジオはスタジオだから、販売にあまり力が入っていないのか。 ③ 当初の目的は、全国にアピールするとともに、観光事業を中心とした産業化を図るとされていたが、現状は本当にギリギリ、どうにもならない状況に受け取れる。 ④ 今の状況であれば講座受講生は、同じ人が何年もきている。経費の無駄遣い、税金の無駄遣いを感じる。
その他	① これまでの活動で、文化的な価値があったのではないか。 ② ガラス工芸品は、展示販売場があって、気軽にみることができ購入できる場所を併設しないと、自分たちでセールスするのは難しいため、色々な要素を加味した環境を作らないことには、今後の展望も見えない。 ③ ガラス工芸が盛んなところは、それを商売にしている、しっかりした企業があるが、徳島は少ない。企業が育っていないのに唐突に、ガラス工芸を持ち込んだ。この30年間で企業が育てばよかったが、育たなかった。行政が応援してきたが、行政だけでは無理であるし、財政収支の問題もあり続けられるわけもなく、本質的な問題がある。

(2) 委員からの主な質問

① 徳島県内にガラス工芸を商売にしている企業はあるのか。

○県内でガラス工芸体験ができる主な施設

施設名	所在地	内容
Art studio and gallery Cradle	徳島市	小皿・おちょこ・小鉢の制作
スタジオアハビレオ21	阿南市	ペーパーウエイト・タンブラーの制作
アトリエフムフム	阿波市	ガラス玉制作・ガラスペン制作
あららぎ工房	那賀郡	トンボ玉(ストラップ・ネックレス)制作

※インターネット等から引用

○ 県内のガラス工芸販売店

販売店	所在地	内容
A r t 工房 花橘	鳴門市	サンドブラスト手法により 表札・Bodom 耐熱2重ガラスマグなど
さとうガラス工房	阿波市	サンドブラスト手法により フォトフレーム・ワイングラスなど
ブラスト工房くわむら	阿波市	サンドブラスト手法により 赤ちゃんの手形足形プレートなど

※インターネット等から引用

② 徳島県内で工芸作家はいるのか。

○ 徳島県内のガラス工芸作家

- ・戸田 智(徳島ガラススタジオインストラクター)

〈受賞歴〉2002年 徳島県美術展奨励賞

2004年 ビアマグランカイ入選

2017年 徳島市芸術祭徳島市長賞

- ・野村 透

〈展覧会〉1996.1998年 ガラス二人展(徳島そごうギャラリー)

2000年 グループ展(大阪ギャラリーエノモト)

- ・藤井 哲信

〈受賞歴〉2004年 国際ガラス展・金沢入選

2005年 徳島県美術展60回記念大賞受賞

2008年 日本伝統工芸展入選

2014年 テーブルウェア大賞 「宮田亮平審査員賞」受賞

※インターネット等から引用

③ ガラススタジオで制作した作品の販売状況は。

- 徳島ガラススタジオの1階展示フロア及びシビックセンター3階エントランスにおいて、インストラクター及び講座受講生のガラス作品等の展示、即売コーナーを設置している。

ガラス作品販売状況

年度	件数	金額
令和元年	551 件	684,000 円
令和2年	197 件	280,350 円
令和3年	287 件	345,464 円
令和4年	442 件	552,350 円
令和5年	351 件	501,760 円
令和6年	226 件	414,110 円

2 第1回検討会議のまとめ

- (1) 他都市においては、ガラス工房（スタジオ）に公園、レストラン等を併設し、観光バスが立ち寄れるようなところが賑わっているが、本市のガラススタジオにそれらを整備することは困難である。
- (2) 本市を含め、徳島県内では小規模なガラス工房はあるものの、ガラス産業や関連する企業はほとんどない。また、講座は同じ人が繰り返し受講しており、新規の人は少ない。
今後、施設設備の老朽化が進む中、これまでと同様に企業の協力なしに行政だけでガラススタジオの運営を続けていくことは厳しい状況であると考えている。
- (3) アウトリーチ事業の実施やガラススタジオで実施している事業をシビックセンターに移行することについては、実施の可否も含めて指定管理者である文化振興公社に具体的な相談を行いたい。

3 文化振興施設（シビックセンター）に移行が可能な業務について

- (1) 徳島ガラススタジオ実施事業のうちシビックセンターで実施できるもの
別表のとおり
- (2) 移行した場合に想定される必要な経費

収入	支出
○ガラス工芸講座受講料 ○ガラス工芸体験料	○人件費 インストラクター・事務員人件費 ○維持管理費 光熱水費・機器の点検・交換・修繕 ○消耗品費 材料購入費 ○広報 ガラス体験等のチラシ作成 ○その他 交通費・保険料

【参考】

※シビックセンターでのコールドコース（トンボ玉）令和6年度実績

受講料収入	開催日数	受講者数 (延べ人数)
449,814 円	30 日	363 人

※指定管理料積算時の人件費（令和7年度から令和9年度）

種別	人数	金額	1人あたり金額
インストラクター	4 人	14,558 千円	3,639.5 千円
事務員	1 人	1,309 千円	1,309 千円

4 課題の検討について

- (1) シビックセンターへの事業移行について
 - ① 徳島ガラススタジオで実施している事業を、シビックセンターにおいても実施が可能な事業を検討した結果、一部の事業については、実施に向けて課題を解決する必要はあるが、継続して実施ができる可能性があると考えている。
 - ② 使用するガラスを加工する機器等については、シビックセンターにおいても、引き続き使用できるものと考えているが検討・検証が必要である。
- (2) シビックセンターへの事業移行に伴う課題について
 - ① ガラス材料等の購入費、及びガラス加工機器等の保管場所が必要であること。
 - ② 適切かつ安全に事業を実施するためには、知識と技術を身につけた人材が必要であるが、専門知識をもった人材の不足等によりインストラクターの確保が難しい状況であると想定されること。また、人件費が必要となること。